

20年の積立投資で資産が倍増!? シニア世代にも
注目される「つみたてNISA」で使われる積立投資
を多様な地域・資産・期間で検証!

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

グローバル株インデックス・ファンドの 20 年の積立投資で資産が倍増!?

2017年7月10日付朝日新聞朝刊に先進国株インデックス・ファンドの積立投資について出ており、検証の結果、「1997年6月末から20年間、毎月1万円ずつ、累計で240万円を買い続けたとします。外国株投信の資産額は、株価と為替レートの変動で上下しますが、積み立て終了の翌月、2017年6月末時点で資産額は2倍超の約496万円に増加しました。…(略)…。注意したいのは、積み立て開始から10年余が経過した09年2月末の資産額です。ここまでの積立累計額は141万円ですが、資産額はそれを下回る約89万円に落ち込みました。」(URLは後述[参考ホームページ]①)と出ていた。

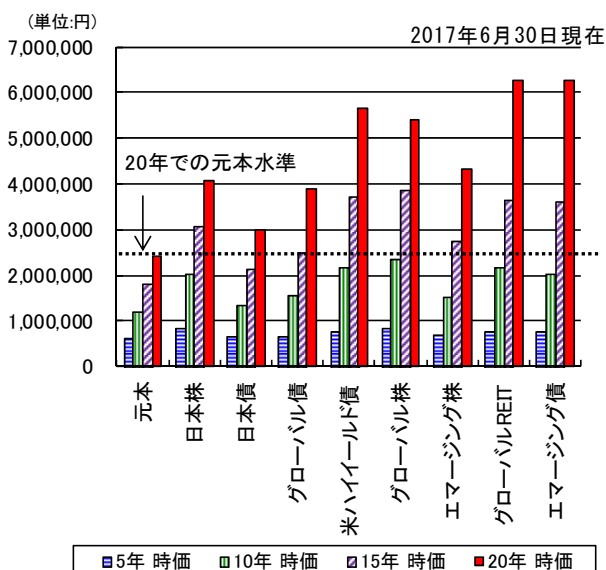
積立は、まとまった資金の無い人にとって資産形成に有効な方法であると同時に、投資初心者が投資タイミングを考える必要が無いメリットがあると言う。最近では、シニア世代が介護費用づくりを目的に運用する手段として注目もされている(2017年7月13日付日本経済新聞～URLは後述[参考ホームページ]②)。ただ問題として、一括投資した時と違い、積立投資のリターン/リスクがわかりにくい事がある。そこで、積立の有効性を、5年、10年、15年、そして、「つみたてNISA」の非課税期間である20年で、多様に、かつ、長期的に検証する。

20年の積立投資をすると、グローバル株以外でも資産が倍増(以上)!

まず2017年6月末時点で、5年・10年・15年・20年、1万円を毎月投資し続けた積立の検証結果から。投信で使われる事の多いベンチマークを見ており、下記グラフの左が時価、右が損益(*手数料等は無視)。結果は、いずれの期間で積立した場合も利益であり、グローバル株以外でも倍増(以上)となっていた。

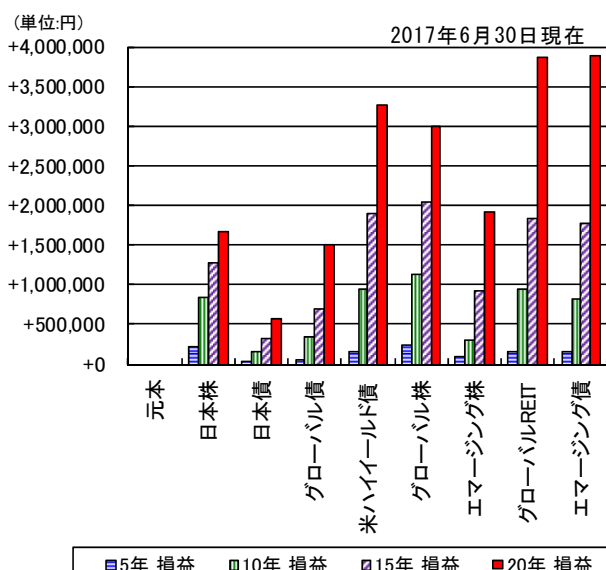
投資期間 5年・10年・15年・20年

2017年6月30日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の **時価** *左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)
*ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している(以下同じ)。

2017年6月30日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の **損益** *左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

前頁グラフをより詳しく見ると、5年ではグローバル株(僅差で日本株)のリターンが最も良かった。10年・15年でもグローバル株(次いで米ハイイールド債)のリターンが最も良かった。実際NISAで投信への投資(積立含む)を行っている投資家にグローバル株ファンドが人気であったことから、これまではグローバル株投資は有効な投資だったと言えよう(2017年7月10日付日本版ISAの道 その187 参照～URLは後述[参考ホームページ]③)。

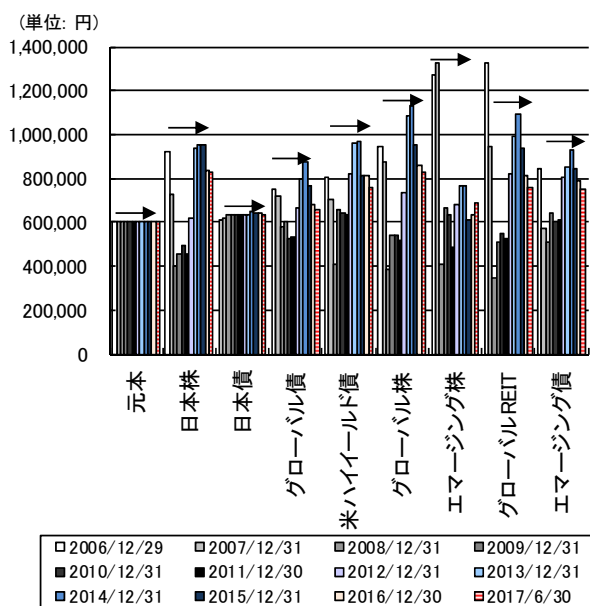
前頁グラフが目立つのが投資期間20年である。その積立投資を2017年6月末まで20年続けた場合、冒頭記事にあった先進国株/グローバル株も確かに良かったが、それ以外の資産、エマージング債とグローバルREIT、米ハイイールド債はグローバル株以上にリターンが良かった。ちなみに、時価の大きい順に、エマージング債(約2.6倍)、グローバルREIT(約2.6倍)、米ハイイールド債(約2.4倍)、グローバル株(約2.3倍)となっている。尚、冒頭記事のグローバル株のリターンでは約2.1倍だったが、これは冒頭記事の検証は実際の投信を意識し、信託報酬年0.216%(税込み)を除いている為である。

2017年6月末時点以外、積立の終了時期を変えて検証する

ここで積立の終了時期を変えて検証する。積立投資は「出口」、つまり、いつ終わるかがとても重要となる。積立は一括投資の様な「投資時期と終了時期の2時点での市場次第」と言うリスクは軽減されるものの、「終了時期の市場次第」と言うリスクがある(*積立期間中に市場価額が上下して平均投資単価が時価を上回るリスクもある)。積立を行い、20年の積立投資で仮にリターンが2倍になった資産があったとしても、投資の終了時期によっては、資産が元本を下回る場合もある。冒頭記事の「注意したいのは、積み立て開始から10年余が経過した09年2月末の資産額です。ここまでの積立累計額は141万円ですが、資産額はそれを下回る約89万円に落ち込みました。」(2017年7月10日付朝日新聞朝刊～URLは後述[参考ホームページ]①)や「特に成績が悪かったのは、積み立ての終了時期がリーマン・ショック直後になった区間。積み立ては後半になるほど投資額が膨らむため、投資をやめる時期の相場環境に結果が大きく左右される。」(2016年1月4日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ]④)と言う事である。そこで終了時期の検証をする。2006年～2016年の各年末までと2017年6月末までを検証した結果である。まずは投資期間5年である。

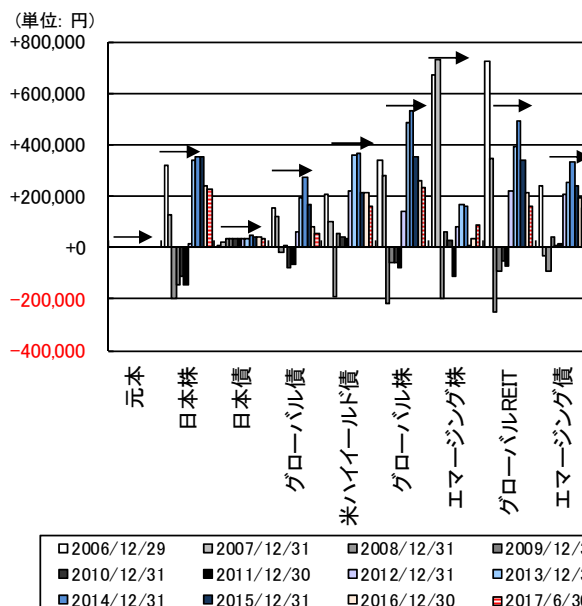
投資期間5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 時価
*左から2006年～2016年の各年末、2017年は6月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 損益
*左から2006年～2016年の各年末、2017年は6月末。



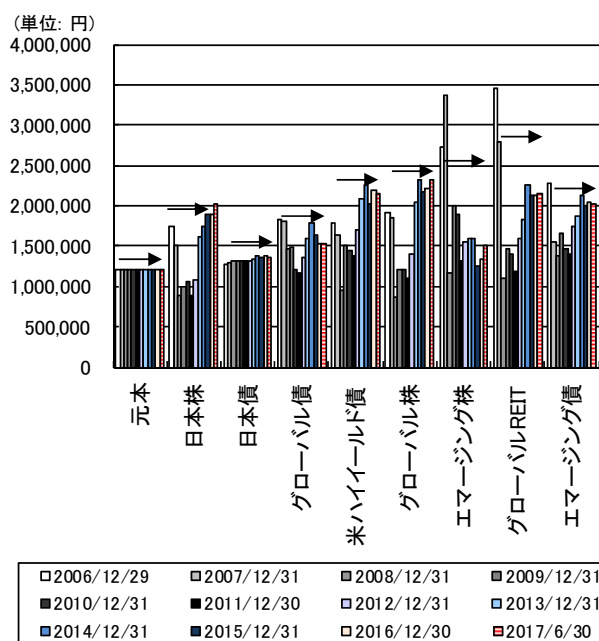
(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

前頁グラフを見ると、グローバル REIT・グローバル株・日本株はリーマン・ショック(2008年9月)後 2008年末から2011年末まで損失が続いている。ただ2012年末に回復、2014年末にかけ利益が拡大している。エマージング債は2007年末と2008年末で損失、米ハイールド債は2008年末に損失となっている。

次いで投資期間10年である。下記グラフの通り、投資期間5年に比べ総じて黒字化している。グローバル REITとグローバル株は、投資期間5年では2008年末から2011年末まで損失だったが、10年では、2008年末と2011年末だけで損失である。エマージング債は5年では損失の時もあったが、10年ではどの時点でも利益となっている。グローバル債は5年で2008年末・2010年末・2011年末いずれも損失だったが、10年では2011年末のみ損失となっている。総じて損失となる年が減り損失額も小さくなっている。ただ、日本株は2008年末から2012年末まで損失であり、前頁の投資期間5年より損失年が増えている。

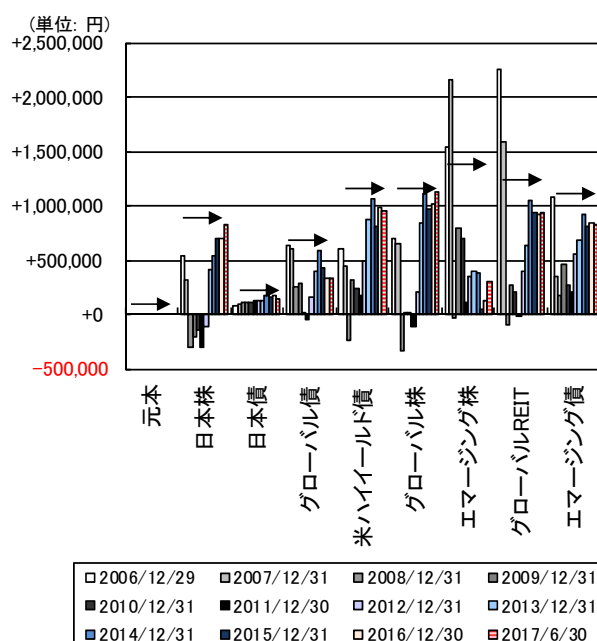
投資期間10年

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 時価
*左から2006年～2016年の各年末、2017年は6月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 損益
*左から2006年～2016年の各年末、2017年は6月末。



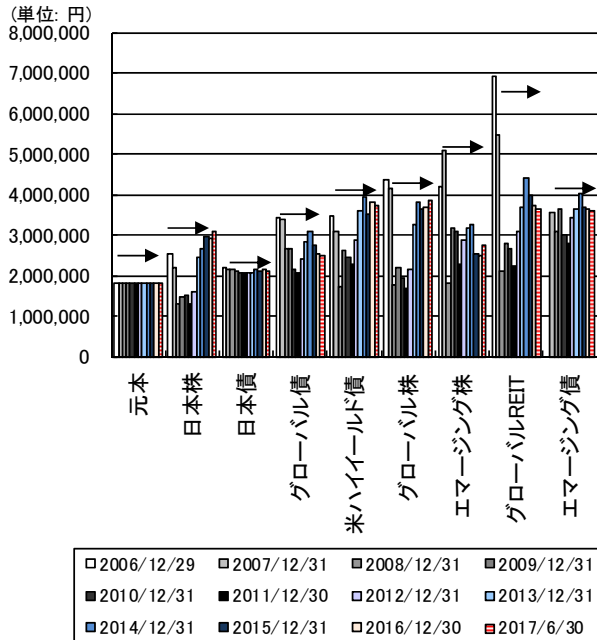
(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

そして投資期間15年・20年である。10年と比べ、より黒字化が鮮明となる。いずれの時点でも利益、もしくは、見えないくらいの損失にとどまる。この様にリーマン・ショック(2008年9月)の様な相場暴落の中でも、より長期の積立投資では良好な結果になっている。

投資期間 15年

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の **時価**

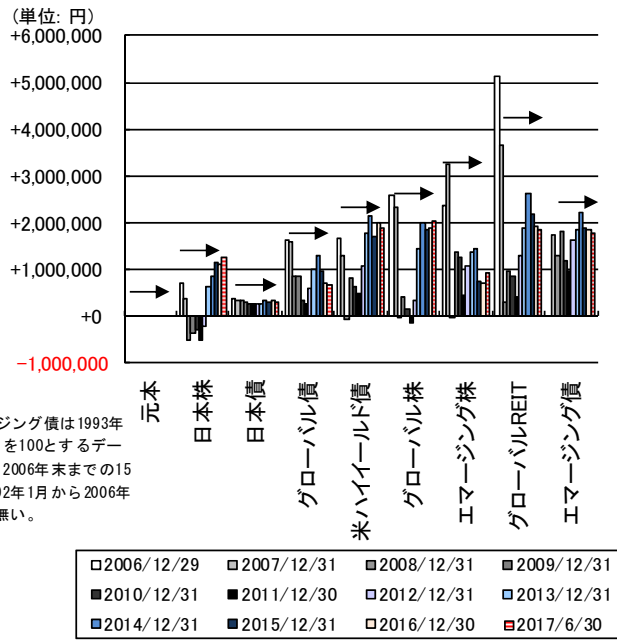
*左から2006年～2016年の各年末、2017年は6月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の **損益**

*左から2006年～2016年の各年末、2017年は6月末。

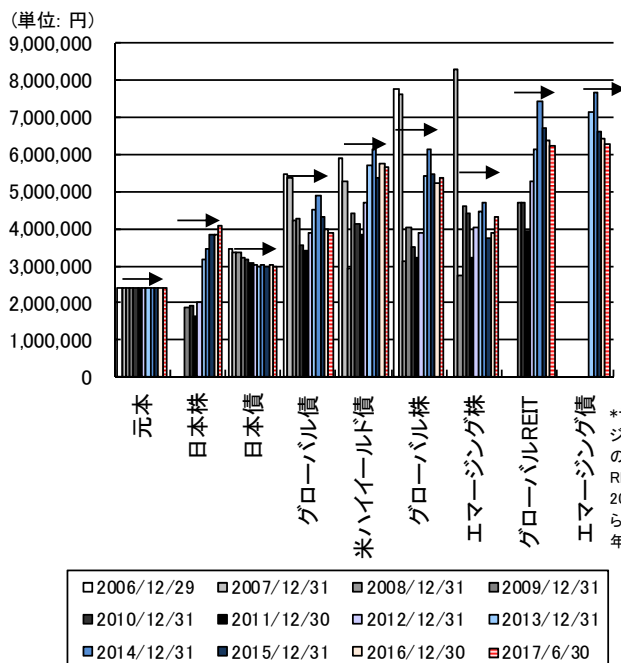


(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

投資期間 20年

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の **時価**

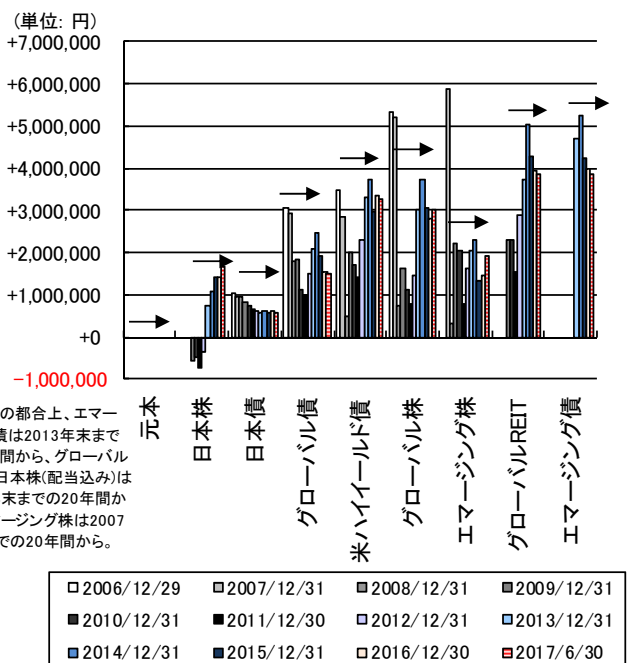
*左から2006年～2016年の各年末、2017年は6月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の **損益**

*左から2006年～2016年の各年末、2017年は6月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

ベンチマークによっては5年・10年の積立で損失を被る場合もあったが、15年・20年の積立では大半のベンチマークで利益となった。

尚、積立投資と共に金融庁がその効果を強調している(資産の)分散投資、バランス型ファンドは、以上の検証の組み合わせに近い、もしくは、ベンチマーク間の「負の相関」があれば、よりリスクを低めてくれ損失をもっと少なく出来る可能性もあろう。

以上、ここに掲載したリターンやリスクを参考に積立を検討、ジュニア NISA、(成人)NISA、職場積立 NISA、2018 年 1 月から始まるつみたて NISA、そして iDeCo(イデコ)/個人型確定拠出年金といった節税出来る金融商品を使い、投資をして資産形成の一助にしてほしいものである。

以 上

[参考ホームページ]

- ①2017 年 7 月 10 日付朝日新聞朝刊「知りたい投信 なるほどリッパー」20 年間積み立て投資していれば 低コスト外国株型で資産倍増」…「 <http://www.asahi.com/business/stock/toshin/SDI201707109391.html> 」、
- ②2017 年 7 月 13 日付日本経済新聞「若者だけじゃない iDeCo・NISA はシニアも利用価値 経済コラムニスト 大江英樹」…「 <http://www.nikkei.com/my/#!/article/DGXMZO18455010U7A700C1000000/> 」、
- ③2017 年 7 月 10 日付日本版 ISA の道 その 187「資産形成の中核に」と期待される 2018 年開始の「つみた NISA」だが、現行 NISA で 6 月に投資された 先は? ~グローバル株やインド株、アロケーションファンド、インデックスファンドが人気~」…「 http://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170710.pdf 」、
- ④2016 年 1 月 4 日付日本経済新聞電子版「積み立て投資は 10 年続けよ『勝率』は9割“完璧”安心老後のポートフォリオ」…「 http://www.nikkei.com/money/column/nkmoney_tokushu.aspx?g=DGXMZO942345502011201500000 」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。